

広田地区復興マスタープラン



平成 24 年 3 月

広田地区集団移転協議会

この計画は、内閣官房による地域づくり支援事業（専門家派遣事業）を活用して、まちづくり専門家の支援を受けながら住民ワークショップを行い、住民による広田地区の復興の考え方と思いをまとめたものです。

陸前高田市では、これから各地区における復興事業等の具体的な取り組みについて検討し、住民との協議が重ねられることになるとは思いますが、広田地区における事業化検討や住民協議のたたき台として、この計画を提案いたします。

是非、参考としていただけるよう、よろしくお願いします。

平成 24 年 3 月

広田地区集団移転協議会
会 長 佐 藤 武

目 次

I 広田地区の復興の基本的な考え方	1
II テーマ別マスタープラン	2
III 取り組みの進め方	11

《参考資料》

<1>地域づくり支援事業(専門家派遣事業)による取り組みの概要	13
<2>アンケート結果	17

I 広田地区の復興の基本的な考え方

私たち広田地区集団移転協議会では、次の3つの考え方に基づいて広田地区の復興に取り組みます。

(1)住民主体の取り組み

復興まちづくりは、私たちの暮らしの環境を再構築する作業です。自分たちが暮らすまちですから、行政に頼るばかりではなく、行政と協力しながら、自分たちの仕事として住民主体で取り組んでいきます。

(2)将来の地域発展につながる復興を目指す

広田地区は、震災前から人口減少や高齢化が進んでいた地区です。従前のまちに戻すだけでは、将来、この地区は衰退してしまう可能性があります。今回の震災復興を機に、これまでの問題点を修正し、将来の大きな地域発展につながるような新たな生活環境の整備と取り組みを目指します。

(3)復興後の継続的な取り組み

現実には、震災復興は限られた時間と予算で行うことになると思います。ですから、復興事業だけで地域に必要な環境整備のすべてが行えるとは考えられません。震災復興は、地域発展に向けた大きな流れの中の一時期の取り組みと考え、復興後も継続して地域発展に向けた各種取り組みを推進します。

II テーマ別マスタープラン

1 防災のマスタープラン

問題・課題

水門が多すぎる
低いところに避難所があった
停電 テレビが見られない



寝たきり
逃げ遅れ

意識の風化

防災無線

防潮堤だけではダメ

基本方針：ハードとソフトの両輪の取り組み

○ソフトが最初

- ・意識を風化させない
- ・備蓄基地
- ・ライフライン自活
- ・防災無線の再整備

○ハード整備の課題

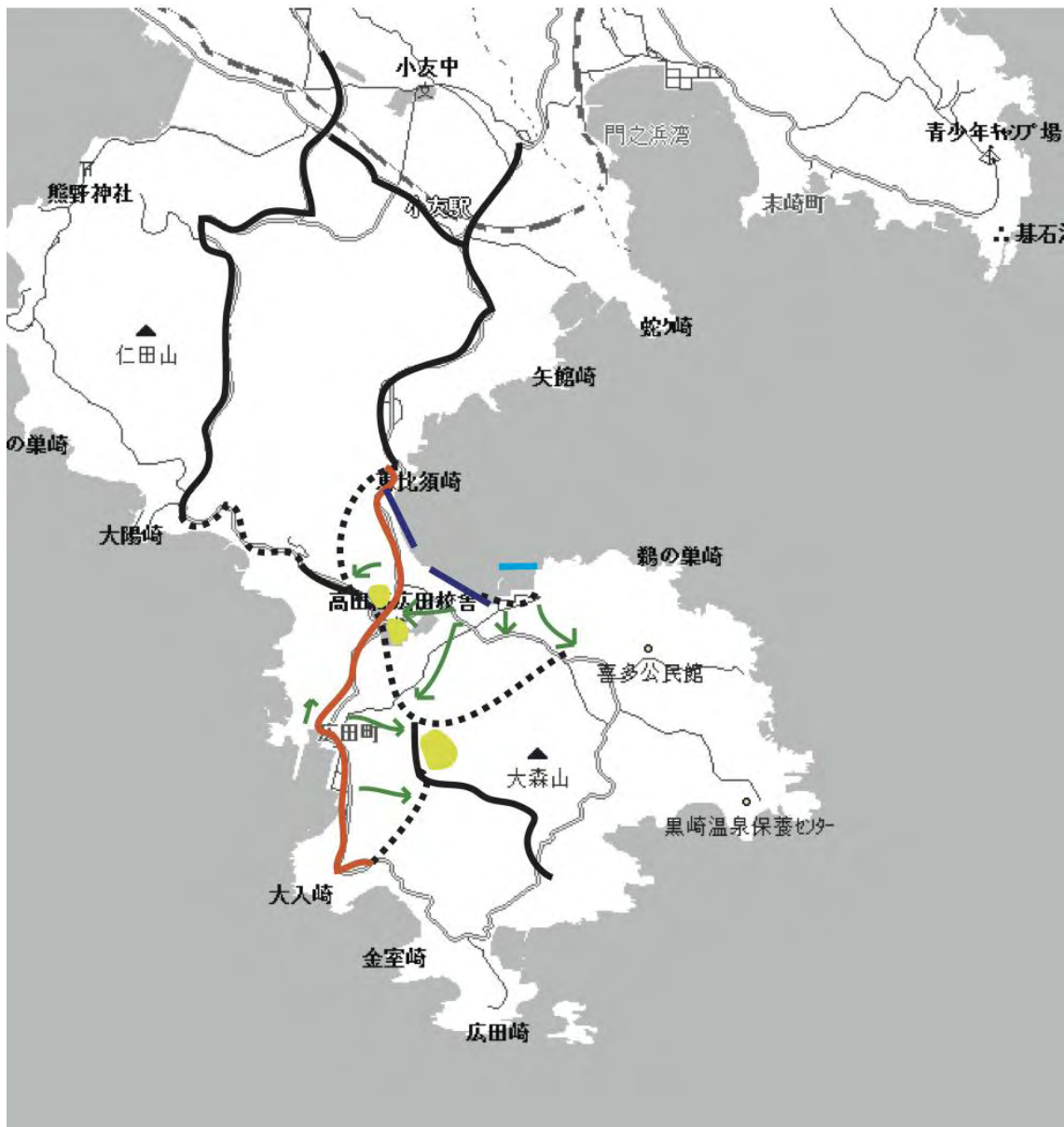
- ・安全な道路交通網の整備が最優先課題
- ・高台への避難路
- ・住まいの高台移転
- ・水門のない防潮堤を！

ソフト

ライフライン自活
ラジオで受信

ハード

交通網 高い所へ行く道路
高台移転 100m 行けば高台
無線の高台移転
備蓄基地



防災グループ参加メンバー（8名）

氏名	集落	氏名	集落
熊谷	泊	斎藤	長洞
菅野	泊	砂田	大野
村上	泊	前原	田端
長野	久保	西條	田端

2 住まいのマスタープラン

基本方針（大前提）

- 1 戸建の木造住宅で再建
- 2 6つの集落ごとに高所集団移転
→災害公営住宅も戸建木造、集落ごと

将来像

- 1 生業を十分考慮した住まいの形と規模
- 2 南向きで海のみえる住宅地
- 3 必ずしも平坦でなくてよし（斜面住宅地）

風光明媚な
広田

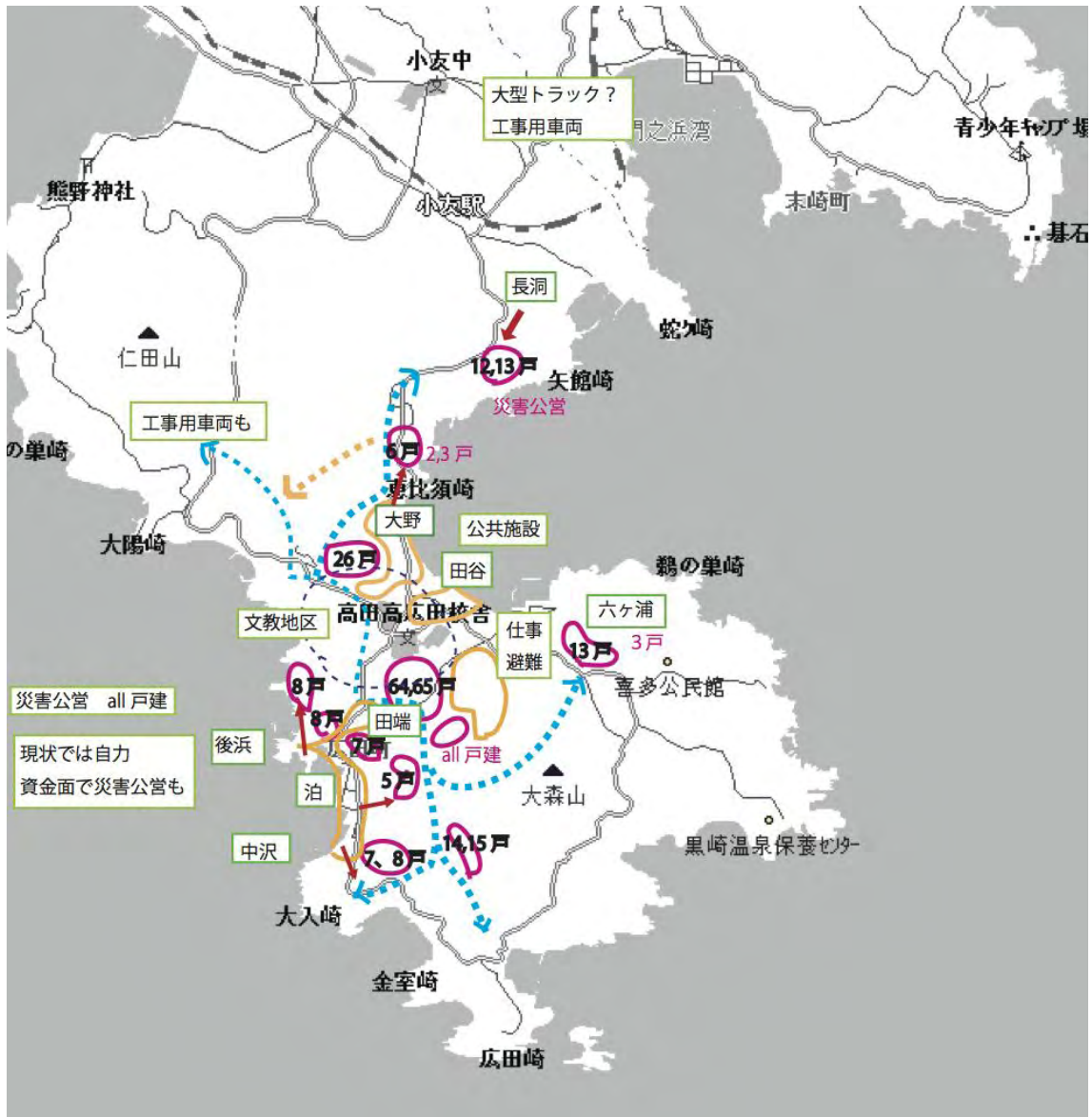
「別荘地のような」 例えば、伊豆、伊東の住宅地
「露天風呂から豊かな海をのぞめるように」
「息子、嫁らが戻って、住み続けられる住宅に」

集落単位の集団移転意向の意向

集落	集団移転先	移転戸数	うち災害公営住宅
長 洞	1カ所	17～18戸	5戸
大 野	2カ所	32戸	2戸
田 谷	2カ所	64～65戸	10～15戸
六ヶ浦	1カ所	13戸	3戸
泊	4カ所	38戸	10戸
中 沢	2カ所	21～23戸	10戸
計	12カ所	187～189戸	40～46戸

事業の進め方

- ① 集団単位、移転先単位で進める 「時間」を見て相互に連携し各々事業計画
- ② アップル道路のルート早期決定！早期着工 +根岬へのアップル道路延伸も
- ③ 住宅⇄漁業、職場への通勤路になる避難路の整備



住まいグループ参加メンバー（12名）

氏名	集落	氏名	集落
佐々木	泊	金野	長洞
臼井	田谷	村上	大野
黄川田	田谷	臼井	大野
菅野	田谷	熊谷	大野
村上	後浜	近江	田端
村上	後浜	菅野	中沢浜

3 福祉のマスタープラン

- 保育所の移転を最優先
- 診療所の早期建設
- 同一の敷地内に各種施設を集約整備
(診療所、デイサービス<高齢者、障害者、児童、学童、etc>)
(ex) 富山型デイサービス

- とじこもり高齢者対策
 - ・ コミセンなどで交流スペース、機会を提供
 - ・ 複合的に同じ場所に置くことで相乗効果
 - ・ 専門職(元気なシルバー人材の活用)を地域全体に置いて対応
 - ・ 移送(手段)の確保

- 宿泊施設(黒崎温泉)の有効活用(健康センター等)
- 場所の問題(広い場所が必要、より安全な場所)
- 介護状態にならないような予防
- つながりがなくなっている(つながりの再構築)

福祉グループ参加メンバー(9名)

相澤	戸羽	熊谷	村上
佐々木	伊藤	長野	志田
加藤			

4 生業のマスタープラン

- 漁港整備
- 修理船・新造船
- 防潮堤
 - ・地域で高さを決める
 - ・水門をつけない
- 共同倉庫・作業場
 - ・地区単位で
 - ・海水をひく
- 漁業あつての観光

広田の漁業 個人での漁 作業小屋 倉庫

港の状況 安全に船を置ける場所 共同で船運用

漁港整備

1～2年で整備！

情報がない
計画がたたない
管轄によって異なる
何処で止まっているかわからない

いまだ舗装していない
カサ上げ一部砂利
防波堤
道路カサ上げ
六ヶ浦・泊のみ荷揚場

+修理船 +新造船

補助 来春まで？
修理新造が進まない

長洞	60隻	養殖	ワカメ
袖野	60隻		
六ヶ浦	200隻		
大陽	48隻	養殖	8隻 カキ ワカメ
後浜	50隻	養殖	カキ ホタテ ワカメ
泊	30隻		
田端	40隻		サンマ イサダ タコ

防潮堤・低地利用

地域で高さを決める
作業小屋 ホタテ 海側
海水をひく
水門はつけない スロープで
防潮堤側 海側 ・作業小屋 ・倉庫
漁業関係者の憩いの場所 集会所
野外活動センターと漁業との関わり

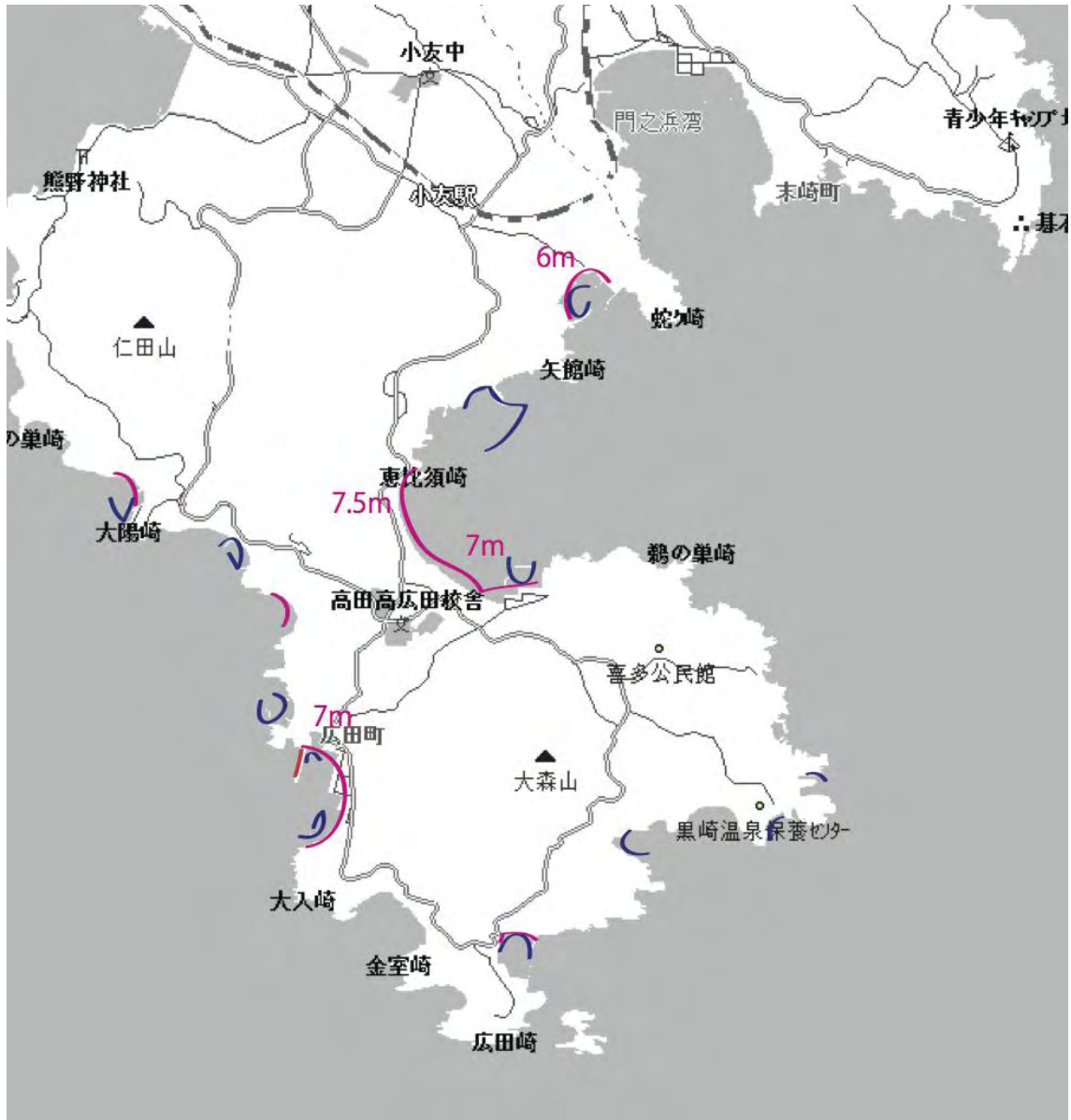
観光：基礎があつての話

バスが入らない
→ 道路拡張
(まわって来られるように)

船を揚げる場 砂浜

地域単位で

+共同倉庫 +作業場 ①船付場 ②修理 造船



生業グループ参加メンバー（10名）

氏名	集落	氏名	集落
菅野	泊	金野	長洞
佐々木	泊	砂田	長洞
菅野	泊	佐藤	大野
村上	後浜	村上	天王前
佐々木	後浜	佐藤	天王前

5 新産業のアイデア

○観光

- ・地域の料理を食べる
- ・岬めぐり／遊歩道
- ・民泊
- ・海上ホテル

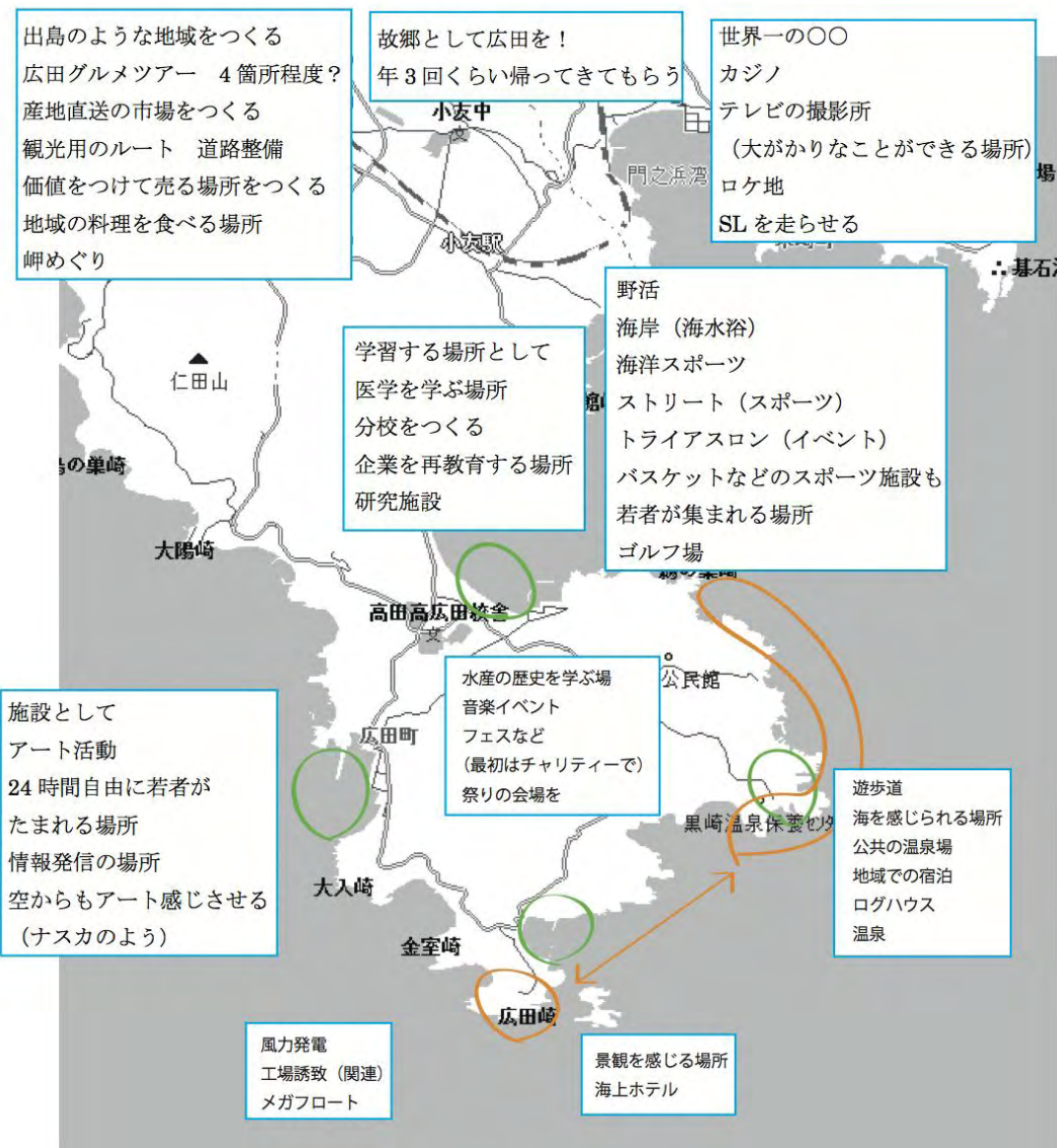
○野活を活かす

○学習の場

- ・大学分校／研究施設

○その他

- ・世界一の○○（ギネスに挑戦）
- ・カジノ／ロケ地
- ・風力発電／メガフロート など



新産業グループ参加メンバー（8名）

ウスイ	イシカワ	アキヤマ	ナカダイラ
カンノ	ムラカミ	スズキ	ササ

6 その他の留意点

- 地元の木材で、地元の大工さんが家を建てる
- 水産業とタイアップした観光産業
- 新たに必要な施設
- 地域の活性化に向けた住民による取り組み

魚付林＝国立公園
木が多い（木材）
→けど使われてない

地元木材の使用で経済への波及効果を期待する
無垢の一本の木を使うと価額の維持が図られる
木を切ると現在地がわからなくなる

なでしこ隊
留守隊が企業
なにかしないと

情報発信
漁業グループで協力し、地域丸ごと自立する
メインは水産

観光 PRがへたくそ
体験型/修学旅行/語り部
ブーム過ぎたら
体験ツアー メニュー

高田松原が無くなった メインを広田半島へ
民宿の料理 激安 ポリューム うまい！
漁師 民宿を

番屋/再興
男の集会場

漁具の格納
海 そのものが資源 漁 観光
港の近くに共同作業場 又 公民館

介護施設

高齢化率だけで、地域ははかれない
70～80歳でも現役の漁師がいる

地産地消、木材

水産業とタイアップした観光（釣り船、体験、修学、民家、二次加工）

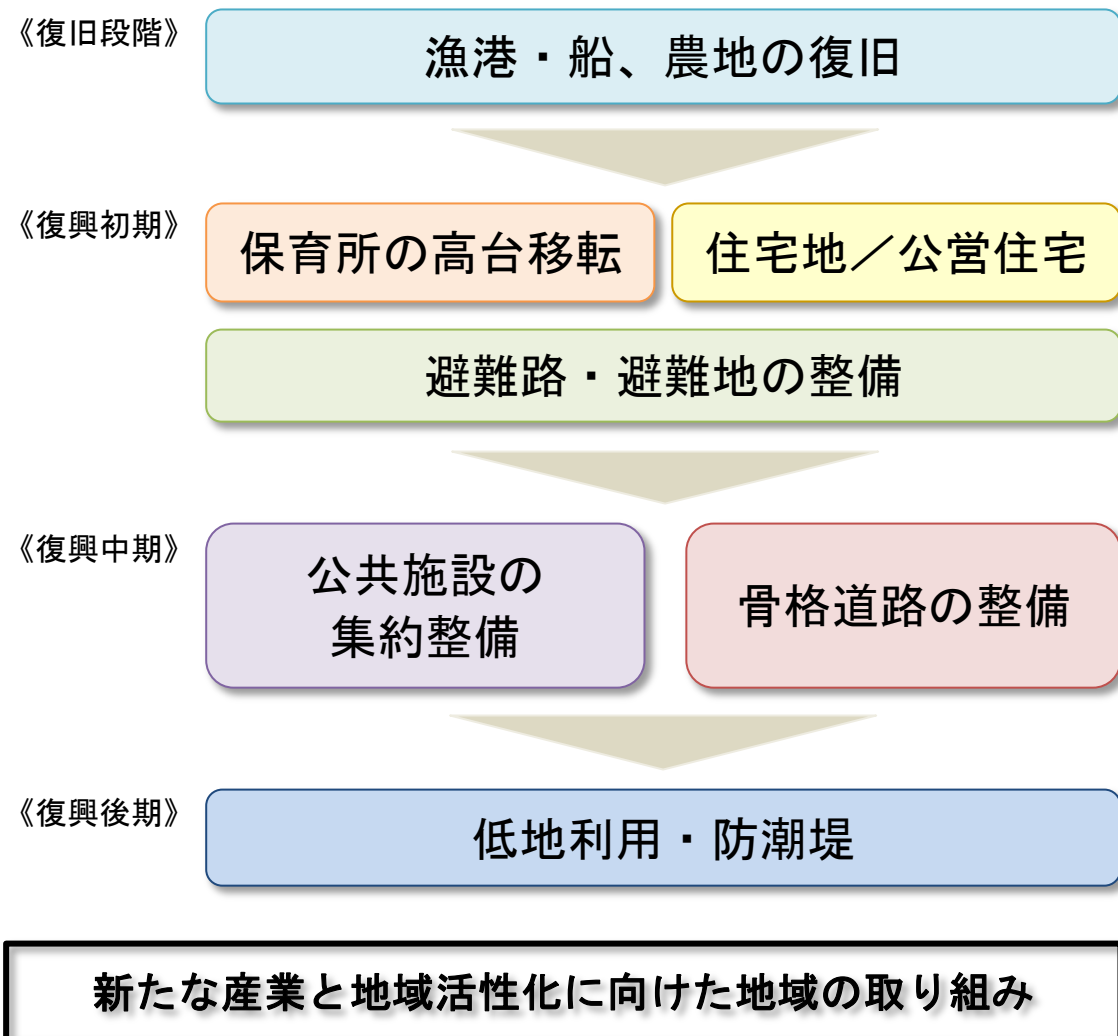
フリートークグループ参加メンバー（8名）

氏名	集落	氏名	集落
佐藤	田谷	戸羽	長洞
村上	田谷	蒲生	長洞
三原	ものづくり大学	菅野	横田町

III 取り組みの進め方

地域住民が、今後も広田地区に留まり地域の復興に取り組んでいくために、復興まちづくりは、まず「生業の場の確保」と「安全な暮らしの環境整備」から取り組んでいく必要があります。そこで、広田地区の復興まちづくりは以下の段階的な取り組みにより進めていきます。

また、復興まちづくりの段階的な流れと並行して、住民主体により「新たな産業と地域活性化に向けた地域の取り組み」を進め、今回の復興を機にした、将来の大きな地域発展を目指します。



《参考資料》

<1>地域づくり支援事業(専門家派遣事業)による取り組みの概要

○平成 24 年 2 月 15 日 (水)

広田地区集団移転協議会にて、「広田地区復興マスタープランづくりワークショップ」の企画検討。

- 《会 場》 広田小学校仮設住宅集会所
- 《時 間》 午後6時～8時
- 《参加者》 協議会メンバー11名

○平成 24 年 2 月 26 日 (日)

「広田地区復興マスタープランづくりワークショップ」の開催。
テーマ別に6つのグループに分かれ、それぞれのテーマに沿ってグループごとに問題意識と“夢”(整備・取り組みについてのアイデア)を検討。

- 《会 場》 大陽公民館
- 《時 間》 午後2時～5時
- 《参加者》 広田地区の住民53名
- 《テーマ》
 - ①防災(避難対策、防災施設、道路ネットワークなど)
 - ②住まい(住宅地、利便施設、街並みなど)
 - ③生業(港との関係、水産施設、低地の使い方など)
 - ④新産業(新たに起業・誘致したい産業、施設配置など)
 - ⑤福祉(高齢者の暮らし、子育て環境など)
 - ⑥フリートーク

○平成 24 年 2 月 28 日 (火)

講演会「木造・戸建てによる住まいの再建」にて、ワークショップの成果を発表。
参加者にアンケートで意見募集。

- 《会 場》 広田小学校体育館
- 《時 間》 午後7時～9時
- 《参加者》 広田地区の住民など約150名

○平成 24 年 3 月 9 日 (金)

活動成果を陸前高田市役所へ報告・提案。

広田地区復興マスタープランづくりワークショップ

1. 主旨

陸前高田市の復興計画を基に、テーマ別に具体的な課題や整備・取り組み内容を話し合い、それを合体させて広田地区の将来の目標像と実現の道筋を整理・共有し、その成果を市へ提案する。

2. ワークショップの進め方

(1) 開会あいさつ (14:00~14:05)

(2) 進め方の説明 (14:05~14:10)

(3) テーマ別グループ協議 (14:10~15:30)

次の5つのテーマ別のグループに分かれて、それぞれのテーマに沿ってグループごとにみなさんの問題意識と“夢”(整備・取り組みについてのアイデア)を話し合い、それを地図上に記入していきます。

《テーマ》	①防災(避難対策、防災施設、道路ネットワークなど)
	②住まい(住宅地、利便施設、街並みなど)
	③生業(港との関係、水産施設、低地の使い方など)
	④新産業(新たに起業・誘致したい産業、施設配置など)
	⑤福祉(高齢者の暮らし、子育て環境など)

《約束事》	*各グループでそれぞれ自己紹介をしてから始める
	*必ず、一人ひとつはアイデアを出す
	*ほかの人のアイデアを否定しない
	*ファシリテーター(進行役)の進行に従う

(4) グループ発表 (15:30~15:45)

各グループ3分程度で要点を発表します。

【休憩 (15:45~16:00)】

(5) 地区の将来像と実現の道筋を共有する全体協議 (16:00~17:00)

各グループが作成した地図を重ね合わせて統合し、矛盾点の解決策や、取り組みの優先順位(段取り)などを全体で話し合います。

(6) 閉会

《2月26日のワークショップ風景》



防災グループの発表風景



住まいグループの発表風景



福祉グループの発表風景



全体協議

<2>アンケート結果

問1 今後のあなたのお住まいについて、どうお考えですか？

1) 被災前と同じ集落に住みたい

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	1	5	24	5	4	9	1	49
ややそう思う	0	1	3	0	2	1	0	7
どちらともいえない	0	1	2	0	3	0	0	6
あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
そう思わない	0	1	0	0	0	0	0	1
無回答	0	1	3	0	4	0	1	9
合計	1	9	32	5	13	10	2	72

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	100%	56%	75%	100%	31%	90%	50%	68%
ややそう思う	0%	11%	9%	0%	15%	10%	0%	10%
どちらともいえない	0%	11%	6%	0%	23%	0%	0%	8%
あまりそう思わない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
そう思わない	0%	11%	0%	0%	0%	0%	0%	1%
無回答	0%	11%	9%	0%	31%	0%	50%	13%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

2) 木造一戸建て住宅に住みたい

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	1	8	29	4	8	10	1	61
ややそう思う	0	1	0	0	2	0	0	3
どちらともいえない	0	0	0	0	0	0	0	0
あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
そう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	3	1	3	0	1	8
合計	1	8	32	5	13	10	2	72

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	100%	100%	91%	80%	62%	100%	50%	85%
ややそう思う	0%	13%	0%	0%	15%	0%	0%	4%
どちらともいえない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
あまりそう思わない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
そう思わない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
無回答	0%	0%	9%	20%	23%	0%	50%	11%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

問1 今後のあなたのお住まいについて、どうお考えですか？

3) 災害公営(戸建)に住みたい

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	0	2	2	1	1	2	0	8
ややそう思う	0	0	2	0	3	0	0	5
どちらともいえない	0	0	2	0	0	2	0	4
あまりそう思わない	0	2	6	1	2	0	0	11
そう思わない	0	3	6	0	0	3	0	12
無回答	1	2	14	3	7	3	2	32
合計	1	9	32	5	13	10	2	72

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	0%	22%	6%	20%	8%	20%	0%	11%
ややそう思う	0%	0%	6%	0%	23%	0%	0%	7%
どちらともいえない	0%	0%	6%	0%	0%	20%	0%	6%
あまりそう思わない	0%	0%	19%	20%	15%	0%	0%	15%
そう思わない	0%	33%	19%	0%	0%	30%	0%	17%
無回答	100%	22%	44%	60%	54%	30%	100%	44%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

4) 災害公営(アパート)に住みたい

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	0	1	1	0	0	0	0	2
ややそう思う	0	0	0	0	1	0	0	1
どちらともいえない	0	0	2	0	2	0	0	4
あまりそう思わない	0	2	2	0	1	0	0	5
そう思わない	0	4	12	1	2	7	0	26
無回答	1	2	15	4	7	3	2	34
合計	1	9	32	5	13	10	2	72

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	0%	11%	3%	0%	0%	0%	0%	3%
ややそう思う	0%	0%	0%	0%	8%	0%	0%	1%
どちらともいえない	0%	0%	6%	0%	15%	0%	0%	6%
あまりそう思わない	0%	0%	6%	0%	8%	0%	0%	7%
そう思わない	0%	44%	38%	20%	15%	70%	0%	36%
無回答	100%	22%	47%	80%	54%	30%	100%	47%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

問2 今後の津波対策・減災対策について、どうお考えですか？

1) 高さ12.5mの防潮堤は必要。

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	0	3	10	4	3	6	0	26
ややそう思う	0	0	5	0	0	0	0	5
どちらともいえない	0	3	5	1	5	1	1	16
あまりそう思わない	0	1	5	0	3	1	1	11
そう思わない	0	1	3	0	1	0	0	5
無回答	1	1	4	0	1	2	0	9
合計	1	9	32	5	13	10	2	72

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	0%	33%	31%	80%	23%	60%	0%	36%
ややそう思う	0%	0%	16%	0%	0%	0%	0%	7%
どちらともいえない	0%	33%	16%	20%	38%	10%	50%	22%
あまりそう思わない	0%	0%	16%	0%	23%	10%	50%	15%
そう思わない	0%	11%	9%	0%	8%	0%	0%	7%
無回答	100%	11%	13%	0%	8%	20%	0%	13%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

2) 避難路の整備を優先する。

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	1	9	29	4	8	10	1	62
ややそう思う	0	0	3	0	4	0	0	7
どちらともいえない	0	0	0	0	0	0	0	0
あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
そう思わない	0	0	0	0	1	0	1	2
無回答	0	0	0	1	0	0	0	1
合計	1	9	32	5	13	10	2	72

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	100%	100%	91%	80%	62%	100%	50%	86%
ややそう思う	0%	0%	9%	0%	31%	0%	0%	10%
どちらともいえない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
あまりそう思わない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
そう思わない	0%	0%	0%	0%	8%	0%	50%	3%
無回答	0%	0%	0%	20%	0%	0%	0%	1%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

3) 防災拠点の機能を持ったコミュニティセンターを整備する。

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	1	6	20	1	8	10	2	48
ややそう思う	0	1	6	1	1	0	0	9
どちらともいえない	0	1	0	1	2	0	0	4
あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
そう思わない	0	0	0	0	1	0	0	1
無回答	0	1	6	2	1	0	0	10
合計	1	9	32	5	13	10	2	72

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	100%	67%	63%	20%	62%	100%	100%	67%
ややそう思う	0%	11%	19%	20%	8%	0%	0%	13%
どちらともいえない	0%	11%	0%	20%	15%	0%	0%	6%
あまりそう思わない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
そう思わない	0%	0%	0%	0%	8%	0%	0%	1%
無回答	0%	11%	19%	40%	8%	0%	0%	14%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

問3 本日発表した復興計画(案)について、どうお考えですか？

1) 災害公営住宅も木造一戸建てにする

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	1	4	20	4	3	7	1	40
ややそう思う	0	0	2	1	5	0	0	8
どちらともいえない	0	3	4	0	1	0	1	9
あまりそう思わない	0	0	0	0	1	0	0	1
そう思わない	0	1	1	0	0	1	0	3
無回答	0	1	5	0	3	2	0	11
合計	1	9	32	5	13	10	2	72

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	100%	44%	63%	80%	23%	70%	50%	56%
ややそう思う	0%	0%	6%	20%	38%	0%	0%	11%
どちらともいえない	0%	33%	13%	0%	8%	0%	50%	13%
あまりそう思わない	0%	0%	0%	0%	8%	0%	0%	1%
そう思わない	0%	11%	3%	0%	0%	10%	0%	4%
無回答	0%	11%	16%	0%	23%	20%	0%	15%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

2) 集落単位で集団移転事業を進める

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	1	4	25	4	2	6	1	43
ややそう思う	0	2	3	0	6	2	0	13
どちらともいえない	0	1	1	0	2	0	0	4
あまりそう思わない	0	0	0	0	1	0	0	1
そう思わない	0	1	0	0	0	0	0	1
無回答	0	1	3	1	2	2	1	10
合計	1	9	32	5	13	10	2	72

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	100%	44%	78%	80%	15%	60%	50%	60%
ややそう思う	0%	22%	9%	0%	46%	20%	0%	18%
どちらともいえない	0%	11%	3%	0%	15%	0%	0%	6%
あまりそう思わない	0%	0%	0%	0%	8%	0%	0%	1%
そう思わない	0%	11%	0%	0%	0%	0%	0%	1%
無回答	0%	11%	9%	20%	15%	20%	50%	14%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

3) 早急にアップル道路の延伸整備する

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	1	7	26	0	8	10	2	54
ややそう思う	0	0	3	2	2	0	0	7
どちらともいえない	0	1	0	1	0	0	0	2
あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
そう思わない	0	0	0	0	1	0	0	1
無回答	0	1	3	2	2	0	0	8
合計	1	9	32	5	13	10	2	72

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	100%	78%	81%	0%	62%	100%	100%	75%
ややそう思う	0%	0%	9%	40%	15%	0%	0%	10%
どちらともいえない	0%	11%	0%	20%	0%	0%	0%	3%
あまりそう思わない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
そう思わない	0%	0%	0%	0%	8%	0%	0%	1%
無回答	0%	11%	9%	40%	15%	0%	0%	11%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

4) 早急に漁港の復旧工事を実施する

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	1	7	28	2	8	10	2	58
ややそう思う	0	0	1	1	3	0	0	5
どちらともいえない	0	0	0	0	0	0	0	0
あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
そう思わない	0	1	0	0	1	0	0	2
無回答	0	1	3	2	1	0	0	7
合計	1	9	32	5	13	10	2	72

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
そう思う	100%	78%	88%	40%	62%	100%	100%	81%
ややそう思う	0%	0%	3%	20%	23%	0%	0%	7%
どちらともいえない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
あまりそう思わない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
そう思わない	0%	11%	0%	0%	8%	0%	0%	3%
無回答	0%	11%	9%	40%	8%	0%	0%	10%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

問4 回答者の属性

1) 性別

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
男性	1	7	21	3	10	5	2	49
女性	0	1	9	1	2	5	0	18
無回答	0	1	2	1	1	0	0	5
合計	1	9	32	5	13	10	2	72

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
男性	100%	78%	66%	60%	77%	50%	100%	68%
女性	0%	11%	28%	20%	15%	50%	0%	25%
無回答	0%	11%	6%	20%	8%	0%	0%	7%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

2) 年齢

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
20代	0	0	1	1	0	0	0	2
30代	0	0	2	0	0	0	1	3
40代	0	0	2	0	1	0	0	3
50代	1	4	4	1	6	4	0	20
60代	0	3	15	1	4	4	1	28
70代	0	2	5	1	2	2	0	12
80代	0	0	1	1	0	0	0	2
無回答	0	0	2	0	0	0	0	2
合計	1	9	32	5	13	10	2	72

	長洞	大野	田谷	六ヶ浦	泊	中沢	その他	合計
20代	0%	0%	3%	20%	0%	0%	0%	3%
30代	0%	0%	6%	0%	0%	0%	50%	4%
40代	0%	0%	6%	0%	8%	0%	0%	4%
50代	100%	44%	13%	20%	46%	40%	0%	28%
60代	0%	33%	47%	20%	31%	40%	50%	39%
70代	0%	22%	16%	20%	15%	20%	0%	17%
80代	0%	0%	3%	20%	0%	0%	0%	3%
無回答	0%	0%	6%	0%	0%	0%	0%	3%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

自由意見

No. 1

公営住宅は広田町に一棟、集合住宅でとの陸前高田市の方針をどのようにしたら変える事ができるでしょうか。

高齢者と言われても、漁業は続けたいという人が多い、その方々の生きがいを奪う事は介護や孤独死などむしろ費用負担が重くなっていく事になる。

集落毎の公営住宅建設は漁業を続ける上で必要であり地域コミュニティを守ることになる。地域の信頼関係こそが復興の力であると思う。

No. 7

復元力のある復興住宅の考え方はよいなと思った。

共同で発注建設、これにより、過激な競争もなくなり、今後、みんなが協力しあった町づくりができるかな。

町の中心地・高台にスーパー、産直お土産物店、観光案内所などをつくり、そこを核に放射線状に集落(高台移転)を配置する。

集落からは、避難道を整備に、その施設には避難所としての機能をもたせる。

そのような町づくりはどうかあー。

夜間に津波が来たら…と思うと、もっともっと混乱したのではないか、広田は外灯が少ないくらい。

それで、夜間の町内を明るくするために太陽光発電を利用した外灯を町内に設置してほしい。

併せて避難道、避難場所が分かる案内板等も設置して欲しい。土地感のない人(観光客等)でも、自力で避難もできるようにしよう。

No. 19

高齢者に関わる仕事をしているので「高齢者が地域の人達に見守られ、自立、自律、生きがいをもった住まいづくり」に大変感心があります。

住み慣れた場所で公営住宅にもそんな住宅になれるようなアイデアがほしいと思います。

「交流がもてて危険性がない住まい」について教えてもらいたいです。

No. 27

木造一戸建て住宅について

広田地区の場合

一部未完成を残す方がよいと思うが心配な面と思う。

住宅ローンを何回も利用すれば毎月の返済額が多くなるのか。

No. 41

山の木を切って自力で一戸建てをと考えて始めた所、その山は砂地でした。この砂地を宅地にする方法などありましたらお力をお貸し下さい。

No. 42

建て売り住宅方法の高台移転のあり方はどうでしょうか。例えば盛岡市緑ヶ丘ヒルズ住宅作り等参考にしたら比較的早い時期に町づくりが出来るのでは？どうでしょう？

No. 47

自分の家は、過去の大津波(昭和八年の三陸大津波)で被災して現在の場所へ集団移転しましたが、(家族2人死亡しました)今回の津波でまた被災してしまいました。

現在は、仮設住宅に入居して自宅を応急修理をしていますが、この様な思いをもう二度と自分の子供や孫に味わせたくありませんので、将来的には今の住んでいる地域の皆さんともう一度集団移転したいと思っています。

No. 52

造成後の土地の価格は県市地区関係なく同一にして欲しい。公平に。

No. 55

大変勉強になりました。

なるべく時間もお金もかけたくありません。早く計画が進んでいくことを望みます。

再建した後のコストも安いと助かります。

No. 57

高台移転事業は早急に進めていくことが必要。6世帯以上は同事業として認可されるとの事だが、平地の少ない広田町で少ない世帯で移転は適しているように思うが、高齢化が進む中で分散した町づくりは、かえってコミュニケーションの分断を招く。高齢者がA高台に住んで友人宅B高台へ移動は距離や高低でムリが生じる。よって、できるだけ広田の中心を集約し、ニュータウン化した方が良い。(旧集落にこだわりすぎると町づくりの為のコストアップであるし、次の世代にとって魅力の薄い町となってしまうと思う)できるだけ多く(集約)家が集まる町づくりをすれば公共施設や道路等コストダウンにもつながる。広田は陸の孤島と化した。命づなである道路の獲得、他町へ抜ける高規格道路を整備して欲しい。(病院にも遠く救急車到着にも時間がかかる→助かる命も助からない。分散して高台移転はその意味からも反対!)

いずれにせよ、高齢化が進む中で、被災者の多くは時間がない。講演を聞いて、統一した美しい街づくり、機能性の高い街並は観光資源になることはわかるが、家づくりの好みは人によって違う。機能性に配慮した住宅を地元の木材を使用してコストを下げる点は大いに評価できるが、みんな同じような家ばかりでは正直つまらないと思う。

先生の考えは理解できるが、高齢化の中では次の世代につなぐアイデア(少なくとも広田にはなじまないかな)ではないと思った。

No. 58

子供たちがかわいそうなので、グラウンドの仮説を早く片付けて欲しい。

No. 67

復旧、復興に際して消費税増税はいかなものかな？

No. 70

明日をいきなればなりません。

高齢者をかかえ、年頃の子供達をもち、ない家のローンがあり、漁業するための新しい機械を買わなければなりません。

現実的な話が欲しいです。

明日が見えないまま、一年がすぎようとしています。

ガイドラインにも想像しても却下。

とにかく頑張るしかありません。

未完成な家づくりも必要なのかもしれない。

結局 自立再建の道ですか？

誰でもわかってることです。

No. 72

中沢浜貝塚について

野活センターとタイアップした史跡公園にしてほしい

No. 74

被災市街地区画整備事業の換地で高台移転する場合に於いても旧集落のコミュニティーを優先して考えて欲しい。

市民と行政の協働

被災市街地土地地区画整備事業

未だ住民説明会がない

11月の復興計画案説明会と1月のアンケートと後覧のみ

H24年予算案の作製に住民意向はふくまれてない0.0%と言って良い。

予算成立後は直ちに説明会をやって欲しい。

No. 75

この様なすばらしい講演会に当局職員が聴衆していないのには、本当に落胆します。

今日来て講演をサポートしていただいている方々にお詫びを申し上げます。

神谷先生と当局との話し合いの中で、少しでも早く当局は市民との対話姿勢を示してほしいものです。

今後の住まいとまちに関するアンケート

平成24年2月28日 広田地区集団移転協議会

本日の広田地区集団移転協議会主催講演会にお越しいただき、誠にありがとうございました。
今後の広田地区集団移転協議会の活動の参考にしますので、下記のアンケートにご協力ください。

問1 今後のあなたのお住まいについて、どうお考えですか？ (○はそれぞれ一つ)

	そう 思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
例)窓の大きな家に住みたい	①	2	3	4	5
1)被災前と同じ集落に住みたい	1	2	3	4	5
2)木造一戸建て住宅に住みたい	1	2	3	4	5
3)災害公営(戸建)に住みたい	1	2	3	4	5
4)災害公営(アパート)に住みたい	1	2	3	4	5

問2 今後の津波対策・減災対策について、どうお考えですか？ (○はそれぞれ一つ)

	そう 思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
1)高さ12.5mの防潮堤は必要。	1	2	3	4	5
2)避難路の整備を優先する。	1	2	3	4	5
3)防災拠点の機能を持ったコミュニティセンターを整備する。	1	2	3	4	5

問3 本日発表した復興計画(案)について、どうお考えですか？ (○はそれぞれ一つ)

	そう 思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
1)災害公営住宅も木造一戸建てにする	1	2	3	4	5
2)集落単位で集団移転事業を進める	1	2	3	4	5
3)早急にアップル道路の延伸整備する	1	2	3	4	5
4)早急に漁港の復旧工事を実施する	1	2	3	4	5

問4 あなた自身とご家族について教えてください。

1)性別(○は一つ)	1. 男性 2. 女性				
2)年齢(○は一つ)	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代 8. 80代以上				
3)被災前の住所 (あてはまる ものに○)	1. 広田町	1. 長洞 2. 大野 3. 田谷 4. 六ヶ浦 5. 泊 6. 中沢 7. その他()			
	2. 広田町以外	1. 小友町 2. 米崎町 3. 高田町 4. 竹駒町 5. 矢作町 6. 横田町 7. 大船渡市 8. その他()			

裏面に本日の講演会や今後の住まいとまちに関するご意見など、ご自由にお書きください。



山古志における震災復興住宅モデル設計（写真提供：アルセッド建築研究所）

講演会「木造・戸建てによる住まいの再建」

講師：三井所清典（芝浦工業大学名誉教授・アルセッド建築研究所代表）



中越地震で被災した山古志村における復興住宅づくりにご尽力された三井所清典先生をお招きし、集団移転地における**住まいの再建、災害公営住宅、木造戸建て、資金計画**についてお話を伺います。

司会・解説は、山本俊哉・明治大学教授。

平成24年2月28日(火) 午後7時～9時

会場：広田小学校体育館（陸前高田市広田町）

主催：広田地区集団移転協議会（会長：佐藤武）

協力：陸前高田を支援する東京4大学共同調査チーム

一般財団法人住宅都市工学研究所・地域住宅研究会

問合せ先：広田地区集団移転協議会事務局・村上 090-6225-7511

広田地区集団移転協議会主催講演会

木造・戸建てによる住まいの再建

平成 24 年 2 月 28 日(火) 午後 7 時～9 時

協力：陸前高田を支援する東京 4 大学共同調査チーム

一般財団法人住宅都市工学研究所・地域住宅研究会

- 1 主催者あいさつ 佐藤武（広田地区集団移転協議会会長）
協力者あいさつ 山本俊哉（明治大学理工学部建築学科教授）

- 2 報告「広田地区の住民による復興計画づくりワークショップ（2月26日）」
神谷秀美（マヌ都市建築研究所／内閣府地域づくり支援事業派遣専門家）

- 3 講演「明日のための復興地域住宅建設について その仕組みと実践」
講師：三井所清典（芝浦工業大学名誉教授・アルセッド建築研究所代表）
講師紹介：気仙大工左官伝承館の建設に尽力された内田祥哉先生（陸前高田市ふるさと大使）
に師事し、各地の地域特性を生かした住宅づくりを進めておられる。現在、東京建築士会会長。

- 主な内容：
 - ① 新潟県山古志村における復興地域住宅の建設について
 - ② 広田地区における復興地域住宅の建設について
 - ③ 地域住宅建設の仕組みとコストと復興支援の制度活用について

- 4 質疑応答・意見交換

- 5 閉会のあいさつ 黄川田富八（広田地区コミュニティ推進協議会会長）

陸前高田市の広田地区集団移転協議会（佐藤武会長）による講演会「木造・戸建てによる住まいの再建」は28日、広田小学校体育館で開かれた。芝浦工業大学名誉教授の三井所清典氏が、新潟県中越地震で被災した長岡市山古志（旧山古志村）の復興住宅を例に、住まい再建のあり方を講演。安く、早く、良質な住宅建築、地域型住宅の考え方、持続可能なものづくりなどの観点で、「まずは小さな家から」と「復元力のある復興住宅づくり」を提案。参加者らは熱心に聴講し、今後の住宅再建の参考としていた。

講演会は住まいの再建や災害公営住宅、木造戸建てのあり方、資金計画などの知識を深めようと企画。陸前高田を支援する東京4大学共同調査チームや一般財団法人住宅都市工学研究所・地域住宅研究会が協力した。

会場には市内各地から約150人が参加。前半は(株)マヌ都市建築研究所取締役・神谷秀美氏が、26日に開かれた「復興計画づくりワークショップ」の全体意見を報告した。

続いて、三井所氏が山古志の復興地域住宅を例に、「地域に根付いた復元力のある住まいづくり・まちづくり」と題して講演。山古志では「山古志にふさわしい地域住宅のモデル」を地元の大工と検討し、その中で最も小さく、最も安いものが約1000万円で建築できることを基本姿勢として住まいづくりを進めたという。

その際、▽山古志の美しい風景になじむ住まい▽暮らしへの対応▽地元の大工技術、県産材・自然素材の活用▽1000万円を達成するための工夫—といった考えで進行。限られた期間内に、多くの住宅を合理的な価格で効率的に供給する体制もつくった。

その結果、2階建ての「低床モデル」（延べ面積28坪）が本体価格約1250万円、3階建ての「高床モデル」（同44坪）が約1350万円で完成。義援金や復興基金を活用すれば、自己資金511万～611万円で建設できるという。

公営住宅の展開では、①集落ごとにきめ細かく造る②二戸一や戸建てが主体③二戸一は将来戸境壁を撤去して戸建ても可能—と紹介した。

東日本大震災被災地の復興地域住宅では、七つのコンセプトを紹介。▽津波による想定浸水高さに対応した津波配慮型住宅▽ローコスト戸建て住宅を活用した自立再建住宅の推進▽地域の木材・技術の活用により地域の環境・経済・技術を持続する地域循環型住宅▽地元推進体制・被災地内外の建設支援体制の構築—などを挙げた。

一方で、復興住宅の完成後は業者の廃業、後継者不足が懸念される。その解消のためにも、「小さくて増築可能な「未完成の家づくり」と、持続可能な地域のものづくり形成に向けた「地域の生業における生態系の保全」が必要」とした。

そして、「復元力のある復興住宅づくりをやってほしい。それぞれの生活に合った住宅を考えていくと、いい住まいができると確信する」とまとめた。

参加者らは質問も行い、今後の生活再建に向けた貴重なヒントとしていた。

参考資料：

http://www.fksk.jp/uploads/pdf/H231209_mitsuisyokyojyukouwa.pdf



神谷秀美氏が広田地区復興マスタープランづくりワークショップの全体意見を報告



三井所清典・芝浦工業大学名誉教授が山古志村の復興住宅づくりを紹介



講演会の会場風景



アンケートの回答風景

